

少しずつ前へ…

コロナという未知のウイルスがこの世に発生してからもう1年以上…

以前とちがいを思うように外出が出来なかったり、ご家族様と自由に面会が出来なかったりと、利用者の皆様及びご家族様には窮屈で大変な思いをさせてしまっています。そんな中、少しでも利用者の皆様が笑顔になれるように、私たち職員は日々どうしたらよいか考え支援・業務にあたっています。

中々外出が出来ない中、範囲を縮小しての買物ボランティアさんとの買物外出やドライブ外出。買物に行くそんな当たり前の事さえままならず、久しぶりの外出先では皆様とても楽しそうに目を輝かせ自分の欲しいものを探しておられました。

そして外出が出来ない分、施設内での生活が楽しくなるよう日中活動の一環として野菜や花を植えて育てました。収穫された野菜は食事

で提供させて頂き、花は皆様の笑顔をとくさん引き出してくれました。

また、施設内での行事を少しでも多く開催し楽しい日々が送れるように取り組んでいきます。ひな祭りや端午の節句、七夕等。大きなシャボン玉を作ったりもしました。今まで見たことのない大きなシャボン玉。「きれいやなあ。」「すごいなあ。」と嬉しそうに話す利用者の皆様。たくさんシャボン玉と笑顔・思い出を作る事が出来ました。

まだまだ、以前の生活に戻るには時間が必要です。

制約された生活の中で、それでも多くの笑顔がみられるように…

日々が輝くように…

少しずつ少しずつ前へ…



坪田望美

ちいさな夏まつり

ペンネーム 銀杏の少年

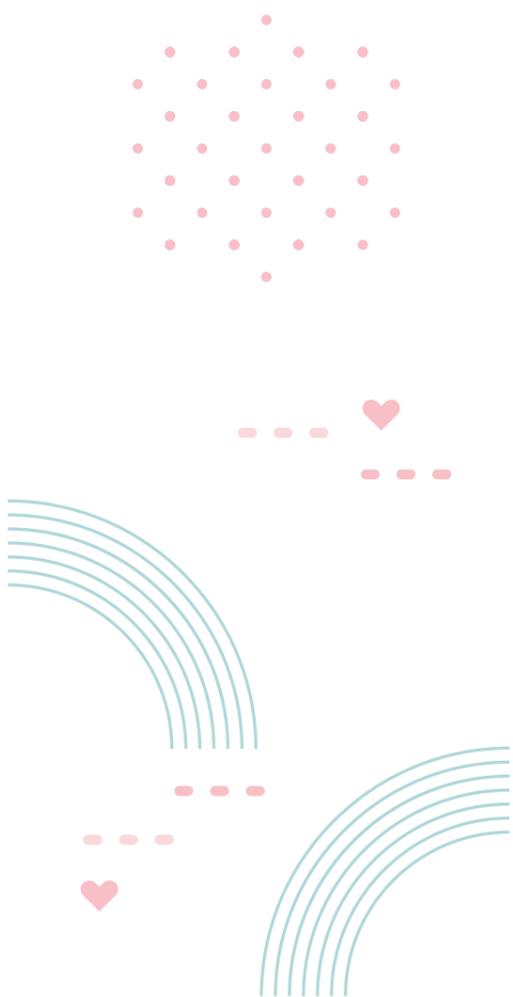
今年も僕の大好きな暑い暑い夏がやってきました。いつもと変わらずやってくる夏に、僕は毎年ドキドキします。蝉がみんな鳴いて、蝸が綺麗に鳴いて、夕日がきれいで。

障害者支援施設希望園の夏には夏祭りがありました。職員も利用者さんも、近所の人も、盆踊りをしたり、屋台や厨房で作ってくれる最高のご飯を食べながら、花火を観ます。考えるだけで楽しいです。しかし、未知のウイルスが僕たちの生活を苦しくしてしまいました。みんながマスクをして、みんなの顔を見ることができず、利用者さんは外出や、帰省もできなくなりました。みんないつになったら外に出られるのか、家族に会えるのか、不安な気持ちでいっぱいだろうと思います。

僕たちにできることは、少しでも利用者さんに笑顔になってもらえるよう努力すること。だから、夏祭りはどうしてもしたいと思い、企画しました。コロナ対策をしながらの、ちいさな夏祭りになりました。

た。美味しくかわいくデコレーションしたアイスクリームとゲームを楽しみました。みんなとても楽しそうでした。中には口から食べることができない方もいて、この日だけは特別にアイスを食べました。その時の笑顔がとても素敵でした。

毎日いまままでにないストレスを抱えて僕たちは生活しています。しかし、今じゃないと気づけない小さな喜びがあります。いつの日かみんなが自由に生活できる日まで、みんなで頑張りましょう。たくさん笑いながら。



心がかような瞬間とは

匿名希望

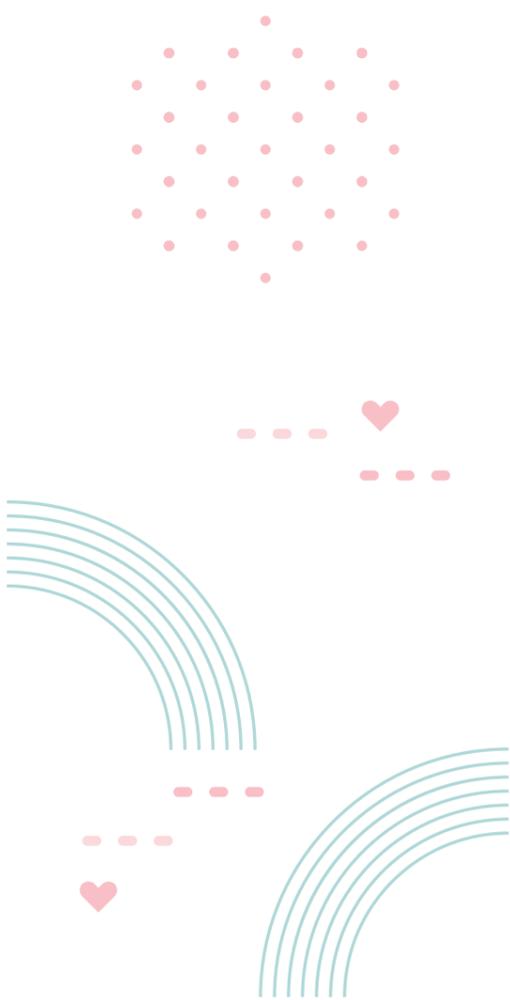
私の知人から聞いたお話です。私の知人は、とある高齢者施設の事務長です。コロナ禍になってからは、家族との面会もタブレット画面越し、ガラス越しとなり、また、施設内の交流事業である夕涼み会や敬老会などすべての行事が中止・縮小せざるをえなくなりました。

しかし、何とかして万全のコロナ感染防止対策をとりながら、入所されている方に笑顔を取り戻してもらえるよう考えに考えた末に県内の感染状況が少し下火になったところに思い切って秋祭りの計画をしたものの、それが近づくにつれてまたもや県独自の「緊急事態宣言」。やむなく断念となりました。

今年はおリンピックやパラリンピックも行われた年、入所されている方の大半が前回の東京大会を覚えていらつしゃるといふことで、オリンピックをモチーフにはがき大の寄せ書きを職員のひとりひとりや普段会えない家族の方からもしたためてもらい、入所されている方にお渡しするという小さなイベントを行

うことになりました。できることなら家族や近所の方も集まってもらおう交流会などのイベントができるとう入所されている方も喜ばれるのでしようが、コロナ禍にあつては想いを馳せたメッセージを届けるだけでも心が入もつていけば十分だと思ひました。

若い方同士ならSNSでいくらでもメッセージを伝えあうことができまふ。昔ながらの「寄せ書き」、今だからこそ、見直してみる価値はあるのではないでしようか。



幸せのおすそわけ

岩本悦信

①一歩目は、いつも笑顔で かたいけの

昨年、肩の手術を行い地元の病院でリハビリに通いながら民生活動をしていました。

思いもしなかったコロナウイルス感染拡大により訪問活動ができるか心配でした。それと、私自身の外来リハビリが閉鎖されないか心配でした。訪問活動は、不要不急とはいえ待っている方も居られます。訪問周期は減らせない方も居られます。考えうる予防対策はしていますが、もし私が感染したら、活動を停止せざるを得ません。しかしリハビリの先生は、いつもと変わらず私が通うのを待ってしてくれます。直に体に触れて運動を助けてくれます。笑顔を絶やさず、いろんな話題で和ませてくれます。その度に民生活動と似ているなと思いました。確かに手術や薬の治療は大事ですが、術後の身体のリハビリと痛み、心のケアは、字の如く、ふれあいで患者の話を聞いてくれます。民生活動も状況をお聞きし行政の専門部署につなぎ、その後の進展を寄り添い見守ります。今思うと予防対策を教えてもらい勇気づけられ、お陰様でコロナに負けずに教えていただいた予防対策を伝え、民生活動ができました。「幸せのおすそわけ」です。教えていただいた高齢者の体操も訪問活動で伝えました。リハビリの先生、医療従事者の皆様の勇気、

熱意に私は支えられました。最近私は、訪問先の電球も替えられる様になりました。有難う御座いました。

②見守りが みてるつもりが 癒されて

子供たちの登校時に横断姿を見守っています。「おはよう」そう言う私自身が子供たちの笑顔から元気活力を貰っています。あの子ご飯食べただろうか。元気に友達と話しながら歩いてくる姿を見ると、ほっと嬉しくなります。今朝も元気に私のポケットの裏地を引っ張り出されます。子供たちはコロナで休みが延長になり気が抜けてしまっていないだろうか。家に様子を見に行きました。元気に弟と遊んでいるのを見て安心しました。「ごはん食べたか?」「うん食べた。」その子が部屋の奥を指さします。食べたあと始末がそのままです。しかし指している指はもつと上です。目を細めて見ると、朝青龍風の二枚目が横断中のあの旗を持ち子供たちが笑って通っている絵でした。

横断中の旗にまたがろうとするいたずらな児童たちに会えなくなると寂しく、一日の歯車が違ってしまいます。私は、普段の見守り活動ができていた事に感謝するようにとコロナに教えられました。

③ またきたか？ 元気なあかし 合言葉

近所付き合いも友人もなく孤立が進み民生委員とも会いたくないと言うAさん。気長に訪問を続けやっと話し相手になりました。行政サービス、町のニュースを伝え、好きな事、得意な事、望む事をお聞きします。やはり、食品の買い出しや病院だけで人との交流がないようです。Aさんからは病気や災害など何かあった時の心細さがぼんやりと伝わってきました。定期的に話し相手になり近所とふれあうきっかけを探しますが、一歩が踏み出せず、時間は経過しました。そんな中、訪問時部屋で倒れているを見つけ救急搬送し一命はとりとめました。私は力不足を感じました。施設からAさんより部屋の荷物、大事な思い出の品、新品の多くの着物や鞆など、始末は私に任せたいと伝言がありました。民生委員として頑張ってきた事がその一言でどれだけ救われたでしょう。大切な品物をAさんが生活するための資金として換えさせていただきました。コロナ禍により民生活動や福祉事業は中止となることもありました。コロナ禍であっても待っている人たちがいます。時代の変化や社会状況に応じて今できることを常に考え様々な活動に取り組みます。日頃からの「地域の横のつながり」を強め住民同士で地域の困りごとを発見共有し、解決への仕組み作りに向け地域と行政、民児協の仲間たちと取り組みます。

④ みとめ合い、きずいた絆の あたたかさ

障がいのAさん、仲間達と4人で暮らしています。1年中地域を自転車で空き缶を集めています。ある日、数件の苦情が入りました。自販機まわりを荒らす、無断で車庫に入る、叱ると大声をだす。定例会での皆の協力で各地区の被害はないかを調べて、あれば、頭ごなしに怒らず優しくわかるように対応をお願いしました。彼は苦しんでいたのです。行政、施設、民生委員、主任児童委員で個別検討会を2年間。して良い事、してはいけない事を理解できるようにゲームに取り入れられました。私は、地域の方達に住人として認められるきっかけとなるよう、共有のお地藏さまの周りの草むしりを提案しました。障がいへの理解を求め冊子を作り地域の方々に配布し地域の方々に障がいの共生の映画など行いました。数年後、皆さんの努力で苦情は聞かれなくなっていました。コロナ禍になり心配なのはコロナの外出制限で生活パターンに変化がある事です。住んでいる地域の区民館の集会に区長にわけを言い、再び話し合う機会をもたせていただきました。すると「そんなわけなら、怒鳴る事はしなかった」。近所のお婆さんは、「えらいもんの、毎日、仏さんの雑草を取りに来なってるわの」と。私は目の前が明るくなりました。彼はその後も頑張っていたのです。地域の皆さんも共生の気持ちは同じでした。継続して活動する事、活動できた事のありがたみを思いました。